

学生の国際交流

和歌山県立医科大学では、学生の国際交流を積極的にすすめています。学生の国際交流には、本学から海外の大学等に学生を派遣する場合と、海外の学生を本学に受け入れる場合の2通りがあります。

海外派遣については、3年生の夏季休暇期間中には基礎医学研究の目的で、6年生のクリニカルクラークシップ期間中には臨床実習の目的で実施しています。令和元年度の約2か月間の基礎配属期間中には3年生8名を海外派遣(カナダ・トロント大学5名、アルバータ大学1名、シンガポール・ナイアン理工大学2名)しました。クリニカルクラークシップ期間中には6年生7名を約1か月間海外派遣(米国バーモント大学2名、ハワイ大学1名、チェコ・チャールズ大学2名、タイ・コンケン大学2名)しました。また、救急国際コンペとして5年生8名をタイコンケン大学へ派遣することを決定しています。令和2年度は、臨床実習として6年生7名を海外派遣(米国バーモント大学2名、チェコ・チャールズ大学2名、タイ・コンケン大学1名、インドネシア・ウダヤナ大学1名)することを決定しています。

海外派遣した学生については報告会を行ってもらっています。そこでは、海外の医学部の実態を肌で感じ、外国の医学部学生と交流し、異文化に触れ、今までの自分からは一回りも二回りも成長した生き生きとした発言を聞くことができます。今後の人生で海外での体験を生かし、更に勉学に励み、すばらしい医師になってもらえることを期待しています。

海外からの学生については、令和元年度にはチェコ・チャールズ大学から2名の医学部学生、タイ・コンケン大学から5名の医学部学生、香港中文大学から3名の医学部生、インドネシアウダヤナ大学から4名の医学部生、米国バーモント大学から2名の医学生を受け入れております。この他、協定校以外の大学の学生や多数の看護学部学生も受け入れています。また、国際交流協定校である山東大学とは、隔年で学生の派遣と受け入れを繰り返しています。令和元年度は、山東大学へ学生と教員を派遣し、和歌山県立医科大学-山東大学学術シンポジウムを開催し盛会のうちに終了しました。日中両国の医学部の学生の笑顔を見ていると、学生同士の交流が活発にすすみ、本学学生が海外の医学部学生と友達になることで、大きく視野を広げてくれていることがわかります。日中の両大学が更に交流を深めることを期待しています。

国際交流協定の締結は、平成29年度までの14大学1病院2機関(山東大学、上海交通大学、香港中文大学、マヒドン大学、コンケン大学、ブラパ大学、チャールズ大学、米国ハワイ大学、韓国延世大学、韓国高麗大学医学部、韓国亜洲大学、インドネシアのウダヤナ大学、ミャンマーヤンゴン第1医科大学、ヤンゴン看護大学、ヤンゴン総合病院、ミャンマー保健省、ベトナム保健省)に、平成30年度にはポルトガルリスボン大学と、令和元年度はインドネシア・アイルランガ大学と協定を結び、着実に増えている状況です。

海外派遣する学生を決定する際には、選抜試験を実施しています。英語、学業成績、面接を総合判定し、すべての項目が一定基準に達している学生の中から、上位の学生を選抜します。英語については、TOEFL iBT 試験を受けてもらっています(speaking の無い TOEFL ITP ではありません)。このため、海外派遣を希望する学生は、TOEFL iBT の受験の準備をしておいて下さい。受験英語が得意だったからといって、TOEFL iBT で高得点が取れるとは限りません。読む、書く、聞く、話す、バランス良く勉強をして下さい。また、面接では、本当に基礎医学の研究に興味があるのか、海外で臨床実習したいと思う強いモチベーションがあるのか等の熱意・意欲も含め評価します。基礎医学研究・臨床に対する熱意・意欲がなく相手先の大学・研究室に迷惑をかけてしまうと、本学と海外の大学との国際交流が続かなくなる可能性もあります。また、時間を割いて教えてもらっているという状況を理解する謙虚な姿勢も重要です。このように語学以外の要素も考慮し選抜を行います。選抜試験の詳細、その他国際交流に関することはどんなことでも、紀三井寺の管理棟1階の国際交流センター事務まで気軽に尋ねにきて下さい。

若い時は、いろいろなことを体験すべきだと思います。人種の違い、宗教の違い、文化の違い、そして世界の医学生の勤勉さを肌で感じてきて下さい。それはきっと貴君貴女を将来すばらしい医師として育て上げることと確信しています。

(文責 国際交流センター長 川股 知之)